教職課程センター紀要　第2号　271－280ページ，2017年12月
Jour. Center Teacher Develop. Edu. Res., Daito Bunka Univ., No.2 271-280, Dec. 2017

実践報告

社会科授業実践のための理論と指導方法

Theory and Teaching Method for Social Studies Class Practice

笠原　昭男

Akio KASAHARA

Key words：多面的・多角的な視点，具体的授業実践，アテルイ，沖縄，水俣
Multifaceted viewpoint, Concrete lesson practice, Atelui, Okinawa, Minamata

はじめに・・・本実践報告の概要と意図

本論は，おもに中学校の社会科の教員を目指す3年生（一部4年生も含む）を対象とした実践報告である。第1回「授業名」の講義において，以下のようなアンケートを取った。

1．あなたの中学校時代を振り返り，社会科の授業はどのように行われていたか，全体的な傾向，印象に残っている授業，感想などを書きなさい。
2．あなたは，社会科は何を教える教科だと思うか（社会科の目的）あなたの考えを書きなさい。

◇中学時代の社会科の授業

多数を占めたものは以下のようなものである。

先生がていねいに講義。教科書に沿って講義形式の授業／教科書を中心に授業。教科書を読むのがほとんどだったので寝てしまったこともある／先生が黒板に説明を書いてそれをノートに写し，その後先生が説明。教科書にアンダーライン／大学の座学と同様の授業。面白くなかった／先生の問いに挙手で答え，正解すると座れた／先生が一方的に話す／年号をひたすら語呂合わせで教えてくれる授業／教科書に沿った授業。時々グループワーク／教科書を読んでプリントに穴埋め。先生が解説。

なかには，「反抗して寝ていたので，ほとんど記憶に残っていない。だから，自分が教師になったらやる気をだせない生徒の助けになりたいと考えている。」と書いた学生もいた。

逆に少数ではあるが以下のように書いた学生もいた。

高校の時だが，ディスカッションなど面白い授業の先生がいたので社会科の教師を目指した／4人グループで授業。教科書を使わず，先生が用意した資料・板書が中心。グループで話し合ったり考え合ったり。とても新鮮で楽しかった／先生が生徒に積極的に質問し，ときおり冗談を言い面白おかしくわかりやすい授業／表，図，写真を多用してわかりやすい授業。時事的なトピックを取りあげ教科書の内容に入っていくなど興味を引く授業だった。

◇社会科の目的は？社会科は何を教える教科なのか？

社会で生きていくうえで知っていなければならない知識を学ぶ教科。（複数）社会で起きている様々なことに対して考える力を身につける教科でもある／偉人などの素晴らしさを教える教科／社会の成り立ちや仕組み，またそのような成り立ちになった理由を過去の出来事（歴史）を踏まえながら説明する／過去を知ることで今に生かせるようにするもの／社会の中で，自分の意見を育む力を育てる教科。自分で判断したり，考えたりすることが大切／昔，失敗したことをくり返さない様に勉強すること。現在の社会がどのようになっているか自分でわかるようになるために必要な教科／日本国民であるという自覚を養い世界と交流できる人物を育てる／自分たちの生きている世界を学ぶ教科／日本の現状や自分の身の回りの地域について教える教科／社会で起こっていることまたは世界でどのようなことが起こっているかに興味，

関心を持ってもらい自ら考える力を養ってもらいたい／ただ単に用語や意味を教えるだけでなく，ビデオや資料を読み取る力や関係性を理解する力を社会科を通じて教える教科／世の中の仕組みや様々な国の歴史や関係を教え，生徒の教養を深めるための教科／社会科を通じて自分の考え方，意思表示の手段を育てる教科／教科書に書いていないことをいかに教えられるかどうか。つまらなかった授業を変えたい／地理，歴史などの基本を教えることは前提だが，同時に知識をどう生かしていくか。どういったときに活用できるかを教える教科，社会，世間のことを教える教科／現代を生きるための知識などを身につける教科。

アンケートをじっくり読むと，次のような傾向が読み取れる。

1．中学時代の社会科の授業は，多くの場合，座学が中心で教師がプリントや資料などを使用して教科書の内容を効率よく教え込む。その場合，学生たちはどちらかと言えば「つまらない」といった印象を持ったようだ。
2．少数ではあるが，工夫された授業もあり，その場合学生は興味を持って授業に臨めていた。

一転して，社会科は何を教える教科なのかを書かせると，ほとんどの学生が意欲的でかなり的確な内容を記述している。本学の学生の前向きな純粋さを強く感じ取った。ただしこの結果については，第1回目の講義内容が大きな影響を学生に与えたと考えられる。講義の中で最近のキーワードとして，いくつかのトピックを取りあげ，学生と一問一答のやり取りをしてみた。例えば「今だけ・金だけ・自分だけ　から　○○へ」「標的の島○○」「相模原事件と○○思想と24時間テレビと感動○○」「オリンピックの本質」「民主主義とポピュリズム」「一億総活躍社会とは？」「女性が輝く社会？」「辺野古と高江と民主主義」「尖閣諸島，北朝鮮問題とマスメディア」「非正規雇用・ブラックバイト・ブラック企業・教育ローン」「教育勅語・日本国憲法・教育基本法」「原発事故とその後：復興大臣発言」「メディアリテラシーと商業メディアの限界」等々

学生にとっては新鮮な切り口からのものの見方に「ハッと」したり，社会科教師を目指す自分が，実は世の中のことについて「知らない」ことが多い事実を痛感したりの時間であったようだ。これらの投げかけによって多くの学生は，今までの自分の価値観を揺さぶられたと推察する。その上で「社会科はいったい何を教える教科なのか」を考えるきっかけになったものと思う。

こうした経緯から，以後の講義では，私の実践を提起する中で社会科教師を目指す学生の“今までの価値観を揺さぶり”，“多様な視点から物事を捉え”，“深く教材を研究する姿勢と具体的な指導法”を創り出せるようにさせたいと考えた。これが，本実践報告の主要なテーマである。本稿では，講義で取りあげた具体的な実践提起の一部と学生の反応を記し，本実践報告のテーマがどこまで達成できたかを検証したい。(注1)

1．どれが本当の阿弖流為？

中学社会歴史的分野：「平安京」の成立

ねらい

平安京の成立とその支配地の拡大を，「阿弖流為」に焦点を当てて学習する。古代，中世，近代の教科書の記述の多くは支配者側から見た歴史である傾向が強い。残されている資料がどうしても支配者側，つまり天皇家，高級武士のものであることが多いからである。しかしそれでは私たちの祖先の本当の姿は見えてこないだろう。そこで，本授業では，阿弖流為にかんする2つの画像を使って多面的な視点で歴史や物事を見て考える必要があることを子どもたちに気付かせたい。

授業の展開

(1) 桓武天皇，794年，平安京，等々の必要な事項をおさえた後・・・
(2) 近畿地方に本拠を置く天皇を頂点とする朝廷は領土拡大を計る。すでに九州，中国・四国，近畿，東海，関東はほぼ平定した。となると次は？

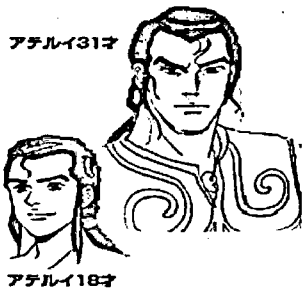
生徒（以下Ｓと表記）「東北」「北海道」
教師（以下Ｔと表記）「東北は，そのころ何とよばれていたの？」
Ｓ「・・・・」「蝦夷かなあ？」
Ｔ［そうだね。エミシ，あるいはエゾ。どういう意味かわかる？］(注2)
Ｓ「・・・・・」
(3) その蝦夷に，京都の朝廷は何度も大軍を送り，征服しようとする。しかし，蝦夷はそのつど大軍を跳ねかえし，従おうとしない。そのリーダーの一人が「阿弖流為（アテルイ）」。この頃書かれた歴史の本・・『日本書紀』(注3)には，蝦夷について次のように記されている。読んでみよう。

エゾは男女が一緒に住み、父と子の区別がない。冬は穴に寝て、夏は巣に住む。毛皮を着て血をのみ兄弟の仲が悪い。山に登ると鳥のようで、草原を走ると獣のようである。恩を受けてもすぐ忘れ、うらみがあると必ず復讐する。矢を髪の毛の中に隠し刀を衣の中に隠している。昔から朝廷に従ったことがない。(『日本書紀』をもとに筆者が中学生向けに意訳した)

(4) リーダーの阿弖流為の肖像(顔)とも言われているものが，茨城県の鹿島神宮に保存されている。それが次の画像A。画像Bは，今の日本でアニメ化されたアテルイの画像。(注4)

さて，それでは，どちらの画像がアテルイに近いだろうか。その理由も考えよう。グループの話し合い➡全体の話し合い。＊多様な意見が出ることを期待。

画像A



画像B

(5) どちらが正しいということはない。どうしてこんなにも阿弖流為の顔が違ってしまうのだろう。そのわけを考えよう。グループの話し合い➡全体の話し合い。＊多様な意見が出ることを期待。

(6) つまり，どの立場から見るか，どの立場から描くかで同じ人物でも全く違うイメージになる事。日本書記は天皇家中心の立場から書かれたもの。だから天皇家に従わない蝦夷や阿弖流為はとんでもない悪党のイメージで描かれるだろう。逆に，蝦夷の人々の立場から見たら，阿弖流為は蝦夷のために勇気をもって先頭に立って闘った「英雄」である。

(7) 「君たちの生活の中で，似たことはないだろうか？」「今の世の中のニュースなどで似たことはないだろうか？」と問う。

(8) 物事は決めつけるのではなく，いろいろな立場，いろいろな角度から見て考えることが大切ではないか，ということを指摘する。というより，この教材を通じて子どもたちに感じ取らせたい。また，今後の歴史の授業でも，そのような見方をして欲しいことを強調。

(9) その後の阿弖流為と坂上田村麻呂の逸話の紹介と清水寺にアテルイと盟友モレの石碑(北天の雄と記されている)があることも紹介。

◇模擬授業後の学生の反応とおもな感想

(➡以降の記述は，私の返答である)

・どうしたら，今回のような授業ができるのか，その秘訣を知りたい。➡特別なマニュアルはありません。たぶん，教師自身の興味や関心の持ち方だと思います。教師は自分のなかにその時点で持っている知識や問題意識の範囲でしか授業を組み立てることができません。常に教師自身が「学ぶ」姿勢が重要だと思います。

・グループで話すことでいろいろな意見があることに気付き，新たな発見ができて自分の視野も広がる。(多数)

・日常生活に関連づけて授業をすることが大切だと思った。

・自分が教師になった時，教科の目的をしっかり考えながら授業をつくりたい。

・みんなが授業に参加できる授業はとてもよい。面白かったし参加できている気がした。人の意見を聞くことも先生だけの偏った考えにならず，とてもよかった。

・たくさんの人と自分の考えを共有し，意見を言い合うことが出来たのがとても楽しかった。

・一方的な考えを持つのではなく多角的な視野を持つことの重要性を再確認した授業だった。

・2年後には教える立場になっていたいので，その時は今回の授業のように，生徒たちに考えさせ，楽しんでもらえるような授業をしたいと思った。そのために専門の知識を今のうちからたくさん身につけたい。

・先生は，自然に授業を進めていたが，そこにはちゃんと「ねらい」に沿った話題作りや話の進め方があったのだということがわかった。また，グループで話し合うことで，全員の前で話すより楽だし，盛り上がるし，意見をまとめる力をつけることもできると思った。

感想を読むと，多くの学生が，「広い視野に立って，社会に対する関心を高め，諸資料に基づいて多面的・多角的に考察(中学校学習指導要領　第2章第2節社会2008年)第1目標　文部科学省)」することの大切さを身をもって感じてくれたようである。また，グループで話し合うことの意義や楽しさも体感できたようである。

グループは「くじ引き」で作成したが，簡単なアイスブレーキングのゲームを行うことで，早めに打ち解けることができたようである。授業等でグループワークを行う場合，まずグループの成員が打ち解け合えるようなゲームやレクのワザと技術を磨くことも必要であることも学生は理解できたように思う。(注5)

2．WE CAN STAND

～「公害」の実相を知ろう～

この教材は，地理的分野（九州地方），歴史的分野（日本の高度経済成長），公民的分野（公害の防止と環境の保全）のいずれの分野でも使用できるものである。以下のような指導構想を学生に配布し模擬授業を行った。

授業構想

教師になりたての時，先輩の社会科教師から，「水俣」を授業でやるから準備をしなさいと言われた。何の問題意識もないまま，水俣について調べ始めた。私にとって大きな衝撃だった。なぜ今まで自分は「水俣」について知らなかったのだろう。このような重大な事実を知らないまま自分は社会科の教師になったのだ。自分は何も知らない。それから，水俣の写真集や書籍や資料に当たり，自分なりの教材を作って授業を行った。私はこの「水俣」の授業を通じて，「社会科の教師」としてのスタートが切れたのだと思う。調べれば調べるほど衝撃的な事実を知り，「怒り」のようなものも生まれた。どうしてこんなことが起きてしまったのか。国や政府は誰のためにあるのか。そして自分はどんな立ち位置に立てばよいのか・・・等々多くの事を考えさせられた。「水俣」は私の社会科教師としての「原点」である。「公害」については，地理・歴史・公民で扱われている。水俣病，新潟水俣病，イタイイタイ病，四日市ぜんそくを「四大公害裁判」とよび，ある程度の記述がある。その後の公害防止へ向けての住民運動や公害対策基本法，環境基本法なども記述されている。しかし，そこには当事者である公害被害者の生きざまや苦悩などが出てこない。それでは「そんなことがあったんだ。」といった「他人事」の授業になってしまう。当事者たちの現実や，映像等を使って，公害被害者の方々の事実を伝えることで，「公害」が他人事ではないこと，人権侵害であることを子どもたちにしっかり学ばせるべきである。

この授業の目標

(1) 「水俣病」の実態を具体的事実に即して知ること。

(2) 普通に生きていた人の日常や人生が「公害」によって破壊されたことを実感させる。

(3) 責任を負うべきは誰なのかも考えさせる。

授業の展開

(1) ある少女の画像を見せる(注6)

「この少女をよく見てください。病気かも知れません。わかることがありますか？」

(2) この少女について作られた歌があります。聞いてください。簡単な英語の歌です。そしてわかることを後で発表してください。

（「WE CAN STAND」）を聞かせる)(注7)

1：We can stand. We can sit. We can walk. We can run.

2：We can speak. We can see. We can think. We can hear.

3：We can throw a ball. We can write letters. We can read a book. We can sing a song.

4：la la la …… But She Cannot Stand.
Look at this picture. This girl is Miss Kumiko Matunaga. She is twenty-one years old.
She is only fifteen kilograms. She is a victim Minamata disease.

5：She cannot stand. She cannot sit.
She cannot walk. She cannot run.

6：She cannot speak. She cannot see. She cannot think. She cannot hear.

7：She cannot throw a ball. She cannot write letters.
She cannot read a book. She cannot sing a song.

8：She can only …… She can only cry ……
She can only cry …… cry and sleep.
Do you know Minamata desease?

(3) どんなことがわかりましたか？

名前は？ 年齢は？ 体重は？ 何ができないの？ 出来ることは？・・・・そう，「水俣病」の患者です。

この少女のように，生まれた時から，お母さんのおなかにいるときから「水俣病」の被害者を「胎児性水俣病」と言います。

(4) これから水俣病について学びます

・水俣は不知火海に面した穏やかな漁港。人々は船に乗って恵み豊かな海で漁をして暮らしていた。

水俣湾画像　九州の地図　（省略）

・1953年ころから，猫踊り病，空から・・・それはやがて人にも次々と・・・

(5) どんな症状が出るのか？　水俣病の原因の解説

工場排水の画像　　食物連鎖によるメチル水銀の蓄積の図　　二十歳の晴れ着を着た上村智子ちゃんとお父さんの画像　　（以上省略）

(6) 1957年　水俣保健所の実験でネコに水俣病発症　➡厚生省不問に付す

(7) 1959年　熊本大学水俣病メチル水銀説を発表

(8) 1963年　熊本大学　原因は「チッソ」にあると発表　チッソは否定

(9) 1968年　チッソ，アセトアルデヒドの製造中止　政府，原因がチッソであることを認める

(10) 1969年　患者と家族　チッソを提訴（裁判に）　1973年患者側勝訴

水俣病裁判の画像（省略）

(11) 2004年　最高裁判所，国と熊本県の責任を認定

(12) 2010年　熊本　中学校サッカーの試合で「水俣病さわるな」と対戦校の生徒が差別発言（MNS産経ニュース2010年７月16日）

(13) 平成28年版環境省環境・循環型社会・生物多様性白書によると，水俣病による死者は，およそ1300人以上，認定患者およそ2500人（熊本，鹿児島，新潟を合わせた数字），申請者数53062人（熊本，鹿児島，新潟を合わせた数字）。しかし，実際の被害者はさらにその数倍はいるだろうと言われている。

(14) 考えよう：水俣病は防げなかったのだろうか？　グループ討論➡全体討論

(15) 考えよう：被害の広がりを抑えることはできなかったのだろうか？　グループ討論➡全体討論

◇模擬授業においての学生の反応とおもな感想

（➡以降の記述は，私の返答である）

・知識や自分の考えがなくては，生徒に教えることができないということをすごく感じた。積極的に本を読んだりすることで知識を増やしていきたい。

➡素晴らしいですね。同時に，「教師は何でも知っていなければならない，教えられない。」ではないと思いますよ。子どもと一緒にわからないことを学び続けるという姿勢が大切なのだと思います。

・今までの教育では歴史の一つの出来事としか教えていなかったが故に2010年の中学サッカーの差別発言などが生じたのだろうと思う。中途半端に教えるくらいなら取りあげない方が良いと思う。（誤解や差別を生むため）取りあげる以上，覚悟して深く教え考えさせたい。これは原発についても同じだと思う。正しい知識を知っていればこのようなことは起きないと思うので，中学生にしっかりと教えたい。

➡私もそう思っています。福島からの自主避難生徒への「いじめ」も同じような構造なのだと思います。

多くの学生は，中学生時代に「公害問題」は学んでいる。しかし，そのほとんどは，「４大公害裁判」の概略の学習が中心で，人間にとって「公害」とは何か，生身の一人一人の被害者や家族とって「公害」とは何であったのか，その苦悩や実相を学ぶ機会がなかったようだ。学生たちは，自分自身がまず「学ぶこと」，そして学んだことをどのように「教材化」したらよいのかについて，この授業からつかんでくれたものと思う。

３．標的の島

歴史的分野「沖縄の日本への復帰」，公民的分野「日本の平和主義」　次のような指導案を学生に配布し模擬授業を行った。(注8)

指導内容と目標

(1) 沖縄戦と米軍の占領　　１時間

太平洋戦争末期，日本での唯一の地上戦「沖縄戦」の実相を学ばせる。関連で「特攻隊」についても触れる。

資料・・教科書，自作画像，特攻隊写真・記録等

(2) 沖縄の今　　２時間

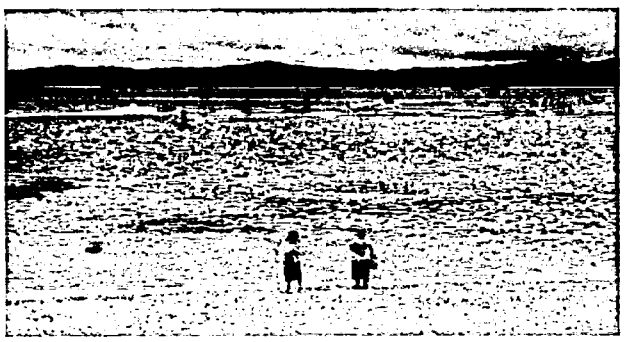
ここでは，沖縄が今どのような状況なのかを様々な画像や資料をもとに考えさせる。特に普天間基地の返還と辺野古への新基地建設，高江のヘリパット建設に焦点を当てる。推進側の政府の主張，反対派の動きや主張を学ぶ中で，「自分は沖縄の問題と無関係ではない。もっと関心を持つべきだ」という認識を生徒に持たせたい。沖縄の問題について，わたしを含む大人もその事実をあまりにも知らなさすぎる。そこから誤った沖縄認識が生じ

ている。子どもたちには，沖縄の歴史，沖縄の今についてできうるかぎりの「事実」を学ばせたい。

資料・・教科書，自作画像，自作資料，ＤＶＤ等(注9)

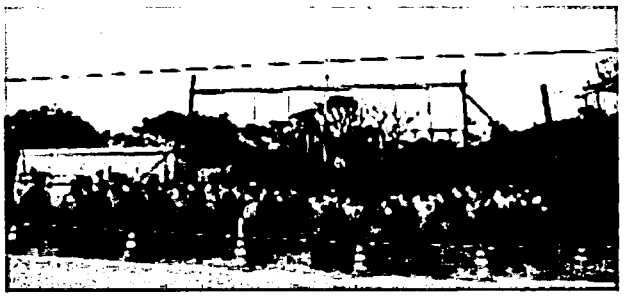
実際の授業プラン

(1)沖縄について知っていることなどを出し合う



美しい海と自然（筆者撮影）

(2)沖縄の今の画像　高江警備写真（筆者撮影）



これは何をしているところ？　場所は？　何を警備しているのだろう？　グループ討論

(3)　画像　反対派をつかみ出す警備員（省略）

画像　辺野古，反対派が抗議する画像

（筆者撮影）

(4)　いったい沖縄で何が起こっているのだろう？

(5)　普天間基地の画像（ここはどこ？町の中にあるね。）

（筆者撮影）

普天間基地を返還し，辺野古に新たな基地をつくること。高江にオスプレイ用のあらたなヘリパットを建設すること。多くの人が反対し，もめていることを説明。

(6)　政府の見解と翁長知事を先頭とする反対派の見解の紹介。出来ればPC等で子どもたち自身に調べさせたい。

政府見解・賛成派見解の概要

・普天間の危険性の除去（普天間は世界一危険な基地という言い方で）
・普天間は480ｈ，辺野古320ｈ基地の縮小
・周辺に民家は少ない，騒音被害も大幅に減少
・面積や機能の縮小。沖縄の負担軽減である
・既存基地（キャンプシュワブ）に移すだけである
・沖縄に基地がなければ中国の脅威をどうする。米軍基地は「抑止力」になっている。
・米国は日本を守っている（日米安全保障条約）
・沖縄は地理的にも日本防衛の重要な場所だ

翁長知事・反対派の見解

・奪った土地に基地を造り，そこが老朽化したから新しい土地をよこせ。嫌なら代わりの案を出せ，とうのはとても理不尽で政治の堕落だ
・辺野古は「新基地」である。普天間にない新たな機能がいくつも加わる。オスプレイ搭載可能な佐世保を母港とする強襲揚陸艦ボノム・リシャールが接岸できる軍港，タンカーが接岸できる燃料桟橋，弾薬搭載エリア機能，100年～200年使用可能
・沖縄の負担軽減を名目に実際は米軍の安全基準に合わない危険で老朽化した普天間を返し現在の海兵隊の求める機能をそろえた全くの新しい基地である。
・北限のジュゴンやサンゴの住む綺麗で豊かな海（大浦湾）の環境破壊である。
・繰り返される米兵の犯罪
・なぜ沖縄ばかりに基地負担を押し付けるのか。

(7)　高江のオスプレイ用のヘリパット建設問題・辺野古画像

高江の画像 警備員，反対派をつかみ出す画像　（省略）

警備員は何を守り，反対派は何を阻止しようとしているのか？

オスプレイの画像　オスプレイ用ヘリパットの画像　豊かな「やんばるの森」画像　オスプレイの説明と不時着（墜落）の画像，騒音，超音波被害，人々の生活破壊　辺野古の地図と画像　基地建設と埋め立て予定の画像（省略）

(8)　沖縄の米軍基地　日本の米軍基地の70%　沖縄本島の18%

米軍基地と沖縄の地図（省略）

なぜこんなに沖縄に米軍基地が集中しているのか？
グループ討論

(9)　沖縄に関する言説の紹介・・ネットや様々なメディアにはおもに以下のような基地問題に対する言説が流れている。これは中学生に問うのではなく，学生がどれくらい基地問題について知識があるのか，ないのかをチェックし今後の学習の動機付けにしてもらうためのものである。

・日米安保があるから日本はアメリカに守られている。
・地理的にも沖縄に米軍基地があるのは当然。
・日本が攻撃を受ければ米国の若者が血を流す。
・基地の見返りに沖縄は膨大なカネを政府からもらっている。
・沖縄経済は米軍基地の恩恵を受けている。（沖縄は基地に依存している）
・基地の地主はみんな何千万円という地代をもらっている。大金持ち。だから基地の返還に反対している。
・辺野古の座り込み。日当２万円。弁当代も出ている。県外の人がほとんど。
・辺野古の反対運動，中国から工作資金が出ている。中国シンパも送り込んでいる。
・金をもらいながら基地に反対はおかしい。
・地方が国に逆らうのはおかしい。
・中国や北朝鮮の脅威（尖閣諸島問題，中国の海洋進出，北朝鮮のミサイル発射など）があるから沖縄に基地は必要。
・普天間は誰も住まない田んぼの中にあった。商売になるので後から人々が周りに住み始めた。

以上の言説について思うことを各グループで出し合う。そうすることで，我々の沖縄についての知識が薄いことや，事実を知らないということを浮きぼりにしたい。

(10)　沖縄の歴史　沖縄の今を知るには沖縄の歴史を知る必要がある。

・明治以前（琉球王国），明治（琉球処分）
・沖縄戦　画像，特攻隊，資料，写真集，手記等を使用
・沖縄戦と土地の強制収容，米軍基地化（ブルドーザーと銃剣で）
・沖縄返還（当時の新聞記事，核抜き本土並み？）
・その後の沖縄の歴史

特に沖縄戦については，様々な画像資料を使い詳細に説明する。その後の沖縄については，米兵による事件や墜落事故が起きていることを具体的な画像や資料を使って説明する。参考資料として，「日米安全保障条約」「日米地位協定」「思いやり予算」をプリントして提示。

(11)　ドキュメント映画『戦場ぬ止み』の視聴

(12)　沖縄に関する質疑と再調査

(13)　私の考える沖縄問題（レポート）

(14)　意見交換会「私の考える沖縄問題」

◇演習

以下の質問に返答してみよう。

①沖縄は基地がある代わりに，国から多額の補助金をもらっている。そのおかげで沖縄経済が成り立っている。基地建設に反対するのはおかしい。
②沖縄は米軍基地があるおかげで経済がなりたっている。基地がなくなったら沖縄経済は破綻するのでは？
③沖縄に米軍基地があるから，中国や北朝鮮への「抑止力」になっている。
④日米安保によって，米軍は日本を守っている。地理的にも沖縄に基地が多くあるのは仕方ない。

この模擬授業後の学生のおもな感想や質問を以下に記す。（実際の模擬授業では，最初に20分程度ドキュメント映画『戦場ぬ止み』視聴した。）

1．米軍基地があることで日本が守られていることは本当であるし，基地があることで，沖縄の自然環境が壊されていることも本当で国と地域のことをいかにバランスよく考えていくのかが難しい。
➡下線部，その根拠は何ですか？本当でしょうか？
2．このビデオを見るまで，沖縄の人たちが強く反対している理由がわかっていなかった。むしろ政府の意見に賛成している自分がいた。わが身に降りかかるまで他人事で私には関係ないと思っている人が多いと思う。だからこそ政府側の意見が通ってしまう。実情を知るというのはとても大切であると思う。
3．本土の私たちと沖縄の人では意識の差が大きいと思った。同じ日本だけどどこか違う国の人と言う考え

があったのかなと思うと，自分もみんな平等になんて言える存在ではないと感じた。難しい問題だけど堂々と沖縄のことを子どもたちに伝えられるようになりたい。

4．今年の夏，沖縄に行って研究をしてきます。今，様々なことを調べて勉強しているところなので来週も期待しています。

5．今まで沖縄の問題をどこか他人事みたいに考えていたが，今日のビデオを見て，他人事のように考えるのではなくきちんとみんなで話し合って解決しなくてはならない問題だと思った。自分でも調べてみようと思った。(同様な意見多数)

6．修学旅行で綺麗な海を見て地元の人ものんびり楽しそうにしていて，何の問題もないと思っていたが，こんなにも理不尽な毎日を過ごしているかと胸が苦しくなった。

7．DVDを見て，心が痛くなった。新聞やニュースで見ていたが，どこか他人事と思っていた自分を恥ずかしいと思った。沖縄県民ではないとか関係なく同じ日本国民として，共に考え，よりよい道を模索する必要があると思った。

8．テレビのニュースで何となく見ていた自分に腹が立ちました。もっと学びたい。

➡胸が苦しくなり，恥ずかしいと思い自分に腹が立つ・・・私もまったく同じ思いです。沖縄について学べば学ぶほど，今までどこか他人事と思い，真剣に考えてこなかった自分に腹が立ちました。しかしそれこそが沖縄問題を考える原点だと思っています。腹が立ち恥ずかしいと思い胸が苦しくなることから始まるのだと思います。こらからの皆さんが楽しみです。私は今も，関東にいて辺野古にいないことでなんともいえない焦燥感にかられます。

9．自分に何ができるかと考えた時に無力な自分に嫌気がさした。豊かな生活，不自由のない生活を送っている自分は本当にその問題に心から向き合えているのだろうかと疑問が湧いた。

➡その自分への問いこそ尊く大切にしてください。自分は本当に向き合えるのだろうかという根源的な問いのないまま表面だけ分かったふりする人も多いけどそれは違うのではないかと思います。私もあなたと同じ思いがあります。

10. 正しいって何だろうと思った。辛すぎて涙がでそうでした。しかし私にはデモとか行動に移すことはできません。そこもまた辛いです。絶対間違っているのに。社会の流れ。何も知らないのは本当に怖い事です。

➡デモや行動に移せなくても，あなたのように真摯に自分と向き合うことがとても大切だと思っています。デモや行動に移せなくても沖縄の事実を知る努力をすること。それこそ今大切なことだと思います。

11. 沖縄問題，ここまで自分が知らないとは思わなかった。ニュースやネットでは沖縄の本当の情報が報道されません。本当に学ばなければ何もわかりません。テレビでは報道されずに建設が始まり，いつのまにか完成すると思うと怖くなります。

12. アメリカが日本を中国や北朝鮮の攻撃から守ってくれているのは事実と思っていたが，「その根拠は？」と問われたときに，明確な答えを言えないことに気付かされた。本当に守っているのかどうか正しい認識がないのに，そのように思い込んでいた自分が恥ずかしいと思った。基地の建設について政府と沖縄県の人々の間で意見が対立していて，どちらの意見が適切か，報道は正しいのかどうか，しっかり考えるべきだと思った。

➡考える材料として，沖縄関連の書籍をぜひ読んでください。

13. 沖縄の若い人の意識はどうなのだろう？資料の新聞のアンケートによると，重視する項目で，30代の58%は「所得」を選択していることから，沖縄の中でも基地付近の人が，辺野古の人たちが声を大きくあげているが，それ以外の人は本土の人たちと同じように少しだけ他人事のように思っている人もいるのではないかと考えた。➡あなたは資料をよく見てくれましたね。素晴らしい！沖縄の若者の意識については，先に挙げた参考文献にも書かれています。『沖縄米軍基地と日本の安全保障を考える20章』の著者の屋良さんが大学生104人にアンケートを取ったところ，以下のようだったそうです。基地は「あるほうがいい」29%「ないほうがいい」33%　「わからない」38%　肯定派の学生は「英語を話す機会が増えるし，国際交流の場になっているのはいい面だ」「マイナスはあるけど，イベントにアメリカ人が参加すると盛り上がる」と考えている。毎年7月4日のアメリカ独立記念日には嘉手納基地でカーニバルがあり，その日は基地内に自由に入ることができて，ピザ，ビール，リブステーキやバーベキューが露店で売られ，アメリカ気分を味わえる楽しいイベントだそうです。アメリカ兵とお付き合いし，結婚されている日本人女性もいます。・・つまり，善し悪しを含めて基地問題を冷静に「事実」に基

づいて議論する必要があると思っています。

14. 自分は修学旅行の内容の一つで，1日アメリカ人の方と過しましたが，とても優しい方でした。今の新聞やニュースでは偏った報道をされることが多いので，事実を知っておく必要があると思います。
15. 昨日，アメリカ海軍の兵隊が沖縄平和記念公園で清掃活動をしたそうです。アメリカと日本の関係を壊さず問題を解決する方法はないでしょうか？➡大多数のアメリカ兵そのものが悪人ではないのは当然ですね。では，いったいこのような不幸なトラブルを生み出している元凶はなんなのでしょうか？深く考え，学ぶ必要がありますね。ぜひ参考文献を読んでください。
16. 普天間の返還と辺野古基地の建設についてアメリカ側はどう思っているのか。限られた情報しかない今の状況において，知るすべはあるのだろうか？

沖縄の基地問題は，複雑である。辺野古への基地建設や高江のヘリパット建設に賛成，反対，その中間層，様々な見解がある。この授業は，賛成，反対を問うものではなく，沖縄の基地問題について，多くの画像や資料を提供し，まず「事実」を知る事，知ろうとすることを最大のねらいとしている。「事実」を知る，学ぶことには賛成も反対もない。「事実」を学び，そこから自分の考えを持つこと。その考えは，他者との意見交換の中で，絶えず修正され，その繰り返しこそ大切であると考える。福島の原発事故やその後の避難者への差別やいじめ問題も沖縄と同じ構造を持っている。つまり，「事実」をあまりにも知らない，知らされていない，知ろうとしないことから様々な誤解や偏った意見が生じるのである。学生たちの真摯な問いや感想を読むと，彼らが少しずつ「事実」を知る事，知ろうとすることの重要性を認識し始めたのではないかと考える。

おわりに

梅原利夫は，「教材に込められた文化の内実は，指導する教師自身がどれだけ深く学び取り，自分自身の文化としてどれだけ豊かに身に付けているのかによって，その質の深さや説得性が決まってくるものです。指導とは指導者が自分で納得し得たレベルの質でしか本当には伝えることができないのです。これが教育の営みが持つ厳しい現実です。」と述べている。(注10) 実際に授業を行えば実感として理解できることである。私自身，梅原の指摘する「教育の営みが持つ厳しい現実」を何度となく経験してきた。特に2011年の東日本大震災と原発事故の時にそのことを痛感した。原発事故の衝撃は大きかった。「自分は今まで，いったい何を教えてきたのか。何を学んできたのか」と自分自身を問いたださざるを得なかった。原発の安全性について，なんとなく疑問を持ちながらも，結局「安全神話」を許容していたことに愕然とし，今までの社会科教師としての姿勢を根本から見つめ直さざるを得なくなった。これから社会科の教師を目指す若い学生たちには，自分は何のために，どのように社会科を教えるのかを早くから自覚的に問い続けて欲しい。そんな思いを持ちながらこの実践を提起した。幸い，先に記したように本学は前向きで積極的に吸収しようとする姿勢の学生が多い。授業中の積極的な反応や，授業後のコメントを読むと，講義を重ねるごとに社会科の教師を目指すものとしての自覚が生まれつつあるように思う。後期は，作成した指導案をもとに模擬授業を行う。どんな授業を構想し，組み立てるのか，それらを注視しつつ学びの深化に期待している。

注

1）毎回の講義の最後に，自作のコメント用紙に質問，疑問，感想を書かせ，それをプリントにまとめ，次回の講義で返答している。学生は，自分の質問や感想が載っていることで，「読んでもらえている」「ちゃんと応答してもらえている」「受講者が，こんな意見を持っていたんだ」等々の感想を持ち，とても有効である。第1回講義の「社会科の目的」についての学生の記述に私は以下のように応答した。「下は現行の学習指導要領の社会科の目標と教育基本法です。どうですか。皆さんが考えたこととかなりの部分で一致していませんか。」

中学校学習指導要領　第2章　第2節　社会

2008年（平成20年）第1　目標　広い視野に立って，社会に対する関心を高め，諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し，我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め，公民としての基礎的教養を培い，国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

◇「教育基本法第1条」 教育は，人格の完成を目指し，平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

2）蝦夷（エゾ，エミシ，エビス） 諸説がある。蝦：えび，がま，ひきがえる　夷：異民族，未開の民族，野蛮人

蝦夷：朝廷に従わない野蛮なやつら，というような意味があるのだろう。蝦夷地＝北海道となったのは江戸期あ

たりからで，平安時代には，今の北海道の存在は朝廷にはほとんど認知されていなかったと言ってよいだろう。

3）「日本書記」は，舎人親王（天皇家）らが編集。720年に成立。アマテラスオオミカミなどの神話，第１代天皇とされる神武天皇から持統天皇までの天皇家の活躍を中心に編集されたものである。

4）画像A
いわての文化情報大事典（いわての城・館：エミシの時代・胆沢城）よりhttp://www.bunka.pref.iwate.jp/rekishi/rekisi/data/nara_2.html（2017年７月３日閲覧）
画像B
長編アニメ「アテルイ」2002年。岩手県発信の文化創造運動の一環として政策。アニメ「アテルイ」映画製作委員会。山崎哲監督作品。　http://www.cinema- tohoku.co.jp/movie/aterui/c_prf.html（2017年７月６日閲覧）

5）講義では，４人一組でグループを作り，グループでの意見交換→全体での意見交換，討論を重視している。そうすることで，学生たちは，グループワークの良さを肌で感じることができるはずである。

6）画像　桑原史成氏撮影　1962年　桑原史成氏の許可を取り，桑原史より提供された画像をコピーしたものである。（2017年７月11日）©2016kuwabara shisei all rights reserved Purinted: 2009

7）「WE CAN STAND」：作詞／古内敬子　作曲／黒坂正文（1974年作品）

8）ここでは対象を中学３年生にしてあるが，本指導案をそのまま中学３年生の社会科の授業として扱うことは現実的には困難である。実践の意図は，学生に，沖縄の事実について本授業を通じて知ってもらうこと。そして，実際に教員になった時，本授業で扱った沖縄学習の中からセレクトして授業を組み立てて欲しいということにある。

9）この学習を組むにあたっての参考資料等を挙げる。
書籍
・『これってホント！？誤解だらけの沖縄基地』沖縄タイムムス編集局　高文研　2017年
・『沖縄　本土メディアが伝えない真実』古木杜恵　イースト新書　2015年
・『普天間を封鎖した４日間』宮城康博・屋良朝博　高文研　2012年
・『観光コースでない沖縄』新崎盛暉他　高文研　2015年
・『戦場ぬ止み』三上智恵　大月書店　2015年
・『やんばるからの伝言』伊佐真次　新日本出版社　2015年
・『修学旅行のための沖縄案内』大城将保・目崎茂和　高文研　2014年
・『沖縄　抗う高江の森』写真：山城博明　高文研　2017年
・『大浦湾の生き物たち』ダイビングチームすなっくスナフキン　南方新社　2015年
・『知覧特別攻撃隊』村永薫編ジャプランブックス　1999年
・『ホタル帰る』　赤羽礼子・石井宏　草思社　2001年
・『尖閣だけではない　沖縄が危ない！』惠隆之介　WAC BUNKO　2017年
・『沖縄米軍基地と日本の安全保障を考える20章』屋良朝博　かもがわ出版　2016年
・『犠牲のシステム　福島・沖縄』高島哲哉　集英社新書2012年
ＤＶＤ／ＣＤ
・『戦争ぬ止み』2015年　129分
・『忘れられた島の闘い』～沖縄返還への軌跡～　ＮＨＫ大阪放送局　平成19年８月１日放映
・『米軍が最も恐れた男』ＴＢＳ制作　平成28年8月21日放映映画三上智恵監督作品
・『標的の村』2013年
・『戦場ぬ止み』2015年
・『標的の島』2017年

10）梅原利夫，「学習指導要領を根拠にした国旗・国歌強制の論点と問題点」和光大学現代人間学部紀要第２号（2009年）